

平成28年度 横浜美術館 指定管理者業務評価表(外部評価)

項目	高橋委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
1 経営 政策目標 横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。	<p>【評価できる点】 オリジナリティーの高い企画を企業を含む様々な団体と連携し、実現・運用している点。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 海外での認知度の低さ。広報活動の更なる充実を。</p>	<p>【評価できる点】 ・国際グループの新設による組織委員会との連携体制の整備や、国内外国際展調査の成果を企画運営に活かすなど、横浜トリエンナーレ主会場として国際的発信力や体制の強化が図られおり期待できます。 ・海外巡回について営業方法を見直し、H30年冬巡回へのスケジュールを明確にするなど、アジアの文化的ハブを目指すグローバルな目的に向けて、着実に見通しをたてています。 ・広報についての多様なチャンネルの駆使、特にツイッターのフォロー—数首都圏最大級維持は今後への期待に繋がります。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 ・国際グループ新設の成果を期待しつつ、かつスピード感をもって具体的体系的に巡回への実現化を進めていく必要があります。 ・海外来館者の把握については、構想会議と並走し、分析からの課題について、どのようにビジターサービスに活かしていくのか、スピード感をもち、多国籍、多様な来館者への、より体系的な傾向と対策をうっていく必要があります。</p>	<p>【評価できる点】 トリエンナーレの準備、海外発信、広報、外部との連携への取組みが着実に進められたと思います。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 社会的に要求されるサービスが多様化していますが、長期的計画の下、対応がなされていると思います。そうした、長期計画との整合的な運営が行われている点を、対外的に強調したほうがよいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 政策目標(経営)「横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。」の達成をめざし、ヨコハマトリエンナーレの企画運営、海外巡回展の企画営業、外部機関との連携、WEBでの露出件数など、多角的に活動を実施し、成果を上げつつある点を高く評価したい。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 ヨコハマトリエンナーレと全国で開催されているアートイベントとの差別化を図り、特徴をもっとアピールできる広報活動の検討が必要かもしれない。</p>	<p>【評価できる点】 横浜トリエンナーレの開催に向け、着実な準備が行われた。ディレクター方式ではなく、会議体での検討に基づいてテーマ、作家選定を行った点については、国内のトリエンナーレ、ビエンナーレに対して、ある種の問題提起につながっていると思われる。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 コレクションの海外巡回展については、現在の取り組みを継続させることに加え、新たな方策の検討など、引き続き、実現に向けた努力が求められる。</p>
2 事業① 政策目標 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます	<p>【評価できる点】 多彩なテーマの展覧会の実現。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 メディアに過度に依存しない展覧会づくりの定着。国際連携の強化。</p>	<p>【評価できる点】 ・地元企業とコラボのゼロックス展やメディアとの連携、35年ぶり開催のカサット展やアジア中堅アーティスト紹介の現代美術展、写真展等、横浜美術館の特徴、強味がいかされたバラエティに富む質の高い企画展が実施されています。 ・若手作家支援(NAP)については、目標をこえる入場者数を達成できており過去の蓄積に照らして、スケジュールや会場に工夫を重ね、学芸員との関係等、発想豊かに来館を拡大した良い例であることを評価します。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 BODY展における、アジアの中堅作家紹介というコンテンツは魅力的かつ意義があり、来館数未達成については、周知における課題の検証など、当該手法を十分に分析し、今後の改善につなげていただきたい。</p>	<p>【評価できる点】 企画展とコレクション展との連動が効果的であったように思います。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 BODY展は有意義であったと思いますが、現代芸術のコアなファン層は、それほど厚くないのではないかと推察します。来館者数予測の精度向上を図ってほしいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 企画展に関しては、利用者数の目標値は達成できなかったものがあったが、政策目標(事業①)「質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます。」の達成をめざし、多様かつ質の高い事業を実施できたことを評価したい。特に、企画展におけるコレクションの活用や若手作家支援活動の成果は、横浜美術館ならではの価値を創出していると思う。また、自館の資源だけでなく、地元企業との協働によって、美術館内外の資源を十分に生かし事業展開している点も高く評価したい。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 BODY展の反省点を今後に生かしてほしい。タイトルの付け方も制作途中評価(formative evaluation)を取り入れ、市民に伝わりやすいものを心がけてほしい。</p>	<p>【評価できる点】 富士ゼロックスとの連携による企画展は、地元企業との協働という点で、新たな可能性を感じられる事業であった。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 4つの企画展は、バランスの取れた内容だったが、蔡國強展、村上隆展などのあった2015年度と比較し、企画展全体として、話題性、企画性に力強さが感じられなかった点は否めない。</p>
2 事業② 政策目標 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	<p>【評価できる点】 豊富なコレクションを活用して様々な展覧会を組織していること。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 収蔵庫スペースなどハード面での改善。市民および市外へのアピール。大学などを参考にアンテナ・スポットを考えても良いのでは？</p>	<p>【評価できる点】 ・「描かれた横浜」における季刊誌との連携や写真コレクション活用のカサット展やアジア中堅アーティスト紹介の現代美術展、写真展等、美術情報センター利用者数増加について、部分改修や展覧会連動の展示、カウント方式変更等複合的な要因が増加数につながっていますが、市民の知の情報拠点として、次年度以降も引き続き利用増加を促すことに努めていただきたい。 ・調査研究についても、紀要による社会還元、OJT実施など、着実に取り組んでおり評価できます。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 ・収蔵庫増など環境整備についての対応や、大規模改修期間に合わせての他館への巡回展の企画や営業が急がれます。</p>	<p>【評価できる点】 当館のコレクションの豊かさが徐々に知られてきているのではないかと考えます。また、コレクションの一層の充実の必要性についての理解も深まってきているように思います。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 写真コレクションの展示希望も増加してくると思います。そうしたニーズをキャッチするアンテナを整備することも必要になると思います。</p>	<p>【評価できる点】 継続して、政策目標(事業②)「魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」の達成をめざし、質の高い事業を実施できていることは、横浜美術館の価値のひとつであると思う。企画展と連動したコレクション展の質の高さの他、資料のデータベースや美術情報センター、研究紀要の利用促進策の実施など、市民に開かれた美術館をめざし、改善を毎年進めている美術館側の取組姿勢についても、高く評価したい。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 来年度以降も一歩でも半歩でも、改善する姿勢を大切にしてほしい。</p>	<p>【評価できる点】 富士ゼロックスのコレクションとの企画と連動することにより、横浜美術館の版画コレクションの有効活用につながった。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 コレクションのパッケージ展の実現に向けて、着実な準備が望まれる。</p>
2 事業③ 政策目標 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	<p>【評価できる点】 活発に市民教育プログラムや学校連携などを行っている点。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 小、中、高等教育カリキュラムとのさらに踏み込んだ連携。鑑賞教育と造形実践の双方が必要。</p>	<p>【評価できる点】 ・ゼロックス展及びカサット展においては、アプリ活用の音声ガイド(ゼロックス)や講演会、シンポジウム他、専門性高い知見の紹介が実施され、企画内容に連動する、多様な工夫や取組みが豊富に市民に提供されています。 ・コレクション展については、横浜美術館ならではの強みに加え、教育観点やコレクションの新たな視点の提示などチャレンジ的な取組みが魅力的に展開されています。とりわけオリジナリティーあふれる取組みはいずれも魅力的で、シンポ、街歩き、アウトリーチによる、地域や市民と文化芸術の通い合いが今後も大いに期待できます。 ・更には、市民協働についても、美術と市民が、多彩なメニューをもって、活発に協働を実現しており、市民協働のステージはコレクション展での多様なチャレンジも含め、着実に向上をみえています。各ボランティア数増加傾向は、クリエイティブインクルージョンの取組みと連動して、誰もが楽しく創造的にアートにかかわれる芸術文化の日常化へと歩を進めていると評価できます。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 ・鑑賞教育にともなう豊富なメニュー消化にかかる負荷について、財源の確保等充実を図り、持続可能な体制強化が急がれます。</p>	<p>【評価できる点】 多様なニーズに対応した施策がとられていると思います。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし</p>	<p>【評価できる点】 昨年度に引き続き、政策目標(事業③)「美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。」の達成をめざし、市民の主体的な関わり方を引き出している点を高く評価したい。組織体制が整い、コンテンツやプログラムの開発も市民協働で進んでいることも意義深い。今後の活動展開についても、大いに期待している。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 手間暇がかかる活動である。短期的な成果だけにとらわれず、中長期的な観点から評価を行うことも必要。次項と合わせて、財団が推進しているクリエイティブ・インクルージョンの観点から、活動内容を整理し、体系化してみることも検討してほしい。</p>	<p>【評価できる点】 これまでの取り組みに加え、さらに多様なプログラムを通して、市民と美術館や美術作品との回路づくりに積極的に取り組んでいる。</p> <p>【改善が必要(課題)と考えられる点】 個々のプログラムがユニークである分、手間、労力のかかるものとなり、ひとつひとつ丁寧に作り込んでいくプログラムと、ある程度マスを対象とした取組みとを組み合わせるなど、戦略の工夫や明確化が求められているのではないかと。</p>

項目	高橋委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
3 施設の運営事業① 政策目標 お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 もっと面の展開も必要ではないか？グッズなどもオリジナルなデザインとアイデアのあるものを開発し、購買力のある場所で販売。	【評価できる点】 様々な人に心地よく美術を楽しんでもらうためのハード面、ソフト面の取り組みが、市民協働も含め、きめ細かく実施されています。託児サービスや障害のある方への補助、また鑑賞者にとっての空間演出など、来館者サービスが横浜美術館の日常にごく自然に組み込まれていることが、来館者アンケートの高得点にもあらわれており評価できます。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 課題ではありませんが、来館者サービスについて、年々の高齢者増加、増える外国人対応、多様な障害へのきめ細かい対応等、社会変化に呼応する恒常的なブラッシュアップがのぞまれます。	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 昨年度のハード・ソフト両面からアクセシビリティの向上を図った上で、さらに来館者サービスの体制や多様なメニューを整備している姿勢を高く評価したい。そうした地道な活動は、市民や利用者にも伝わっていると思う。成果として、アンケートの数値に表れていると思う。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 前項と合わせて、クリエイティブ・インクルージョンの観点から、活動内容を整理し、体系化してみることも検討してほしい。	【評価できる点】 小さなサービスの改善を積み重ねるなど、着実に実施されている。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 お客様目線にたつて、さらなるサービスの向上に務めていただきたい。今後予定されている大規模改修は、サービスを大幅に改善できるチャンスであり、問題点や課題の洗い出し、対応策の検討などに丁寧に取り組んでいただきたい。
3 施設の運営事業② 政策目標 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	【評価できる点】 ファンドレイジングの強化の方向性。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 企業連携の具体化。	【評価できる点】 BODY展でのレセプション等は、企業連携が目に見える形で遂行され、市民や企業により支えられる美術館の在り方を社会にも提示できています。地道な努力を重ね、契約数はもう一息ですが、協賛額は予算を上回っており、たゆまないファンドレイジングに対する積極的な姿勢を評価します。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 経営基盤の強化として、企業のみならず、鑑賞者によるファンドの仕組みも整備し、市民の財産である芸術を社会全体で支える仕組みにつなげることも明日への課題として検討が望まれます。	【評価できる点】 企画展とコレクション展の内容が評価され、協賛によるファンドレイジングへとつながっています。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 自主財源には限界があると思います。指定管理料が、どれだけ経済波及効果を産み出したかということで評価することもあってよいと思います。	【評価できる点】 持続可能な運営をめざし、財団内部でできる人材育成や体制整備、法人協賛制度の充実などを行っている点を評価したい。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 大規模改修に向けて、市側がイニシアティブをとり、予算確保に努めてほしい。庁内説明資料作成は美術館側もこれまで同様協力し、政策協働型で進めてほしい。また、大規模改修にあたって、レストランや市民ファンドのあり方について、早急に検討し、取り組んでほしい。	【評価できる点】 環境条件の厳しい中、民間からのファンドレイズなどに対する努力が伺える。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 環境条件の厳しい中、民間からのファンドレイズなど、引き続き経営基盤の強化に取り組んでいただきたい。
4 その他の業務 政策目標 政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	【評価できる点】 市の政策事業との相互連携。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 予定通り推進されています。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 横浜市の専門文化施設として、政策協働で培った横浜美術館の優れた管理運営力の蓄積を、創造性と横浜美術館らしさをもって今後に活かしていただきたいと思います。	【評価できる点】 財団と美術館現場との間で定期的な意思疎通が図られています。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 本館ならびにみなとみらいホール運営の特色であると思いますが、この方式の意義について市民の理解が深まっているのかどうか、確認が必要であると思います。	【評価できる点】 「政策協働による指定管理を推進」するあり方について、評価を下すことではなく、PDCAのマネジメントサイクルを動かすためのツールとして評価を位置づけた点を評価したい。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 今後の動向に注目したい。評価設計についても、改善が必要と判断したときには固定的に考えず、再検討してもらいたい。	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし
5 人員計画	【評価できる点】 体制としては整っている。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 今後、当初メンバーの定年などによる年齢バランス等を慎重に考慮する必要あり。	【評価できる点】 計画通り推進できています。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 ・現段階で人員負荷のかかっている部門などへのバランスや改善も含め、大改修後を見据えて、高い専門性を発揮でき、美術館の価値を高めていける人材の育成がのぞまれます。	【評価できる点】 現代芸術、写真等、専門家が組織内に育ってきていると思います。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 「国際都市横浜」の美術館として、「専門性を発揮できる組織」に成長している点を高く評価したい。また、来館者サービスの充実を図るための市民協働型の体制づくりも評価したい。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 今後も、これまでの取組姿勢を継続してもらいたい。	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし
6 留意事項	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 計画通りに行われています。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 ・法令順守など基本的な留意事項は、適正に対応できており、今後も引き続き、適正に推進していただきたい。	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 適正に実施されていると思う。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし
7 収支計画	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 入場者数の見込める展覧会ばかりでなく、多彩な挑戦を試みておられる中で、収支均衡を保っていることは、協賛金助成金獲得をはじめたゆまぬ努力の成果と評価します。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 横浜美術館に限りませんが、市民の文化資産である美術館に愛着と誇りを注げるためにも、企業だけでなく市民によるファンドの仕組みを整備できるとよいと思います。横浜美術館はその先鞭を担える美術館だと思えます。財政基盤の強化について、外部資金の組み立て方、sustainableな仕組みの構築が大切だと思えます。	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 特になし	【評価できる点】 昨年度同様、企画展の中には目標入館者数に達しなかったものがあつたが、年度内全体でバランスをとり、マネジメント／経営管理できている点を評価したい。 【改善が必要(課題)と考えられる点】 外部資金導入策をさらに検討してほしい。	【評価できる点】 特になし 【改善が必要(課題)と考えられる点】 圧縮すべき経費、投資すべき経費のメリハリをつけて、取り組んでいたきたい。

総括	健全な運営という印象。美術館経営の難しい時代に公立館としてのモデルとなり得る質の高い事業を行っていると感じる。	・28年度も横浜美術館総力をあげて、館の特色や強みを活かし、優れた専門性や企画力をいかに発揮して展覧会を開催し、魅力の横浜美術館として、その存在感を高めています。 ・とりわけ、一般に比較的低ポピュラーでないといわれる女性印象画家をテーマとした「メアリー・カサット展」や、企画展と連動して全館写真展とした館独自の見せ方の工夫など、専門家はもちろん、一般鑑賞者の反響の大きさは、高い専門性や企画力が存分に発揮された成果として、高く評価できます。 ・また教育普及事業では、海外の専門家や教育機関との連携、演劇や街歩きツアー、病院や高齢者施設等、地域や社会と連動して「アートと教育」の多様な可能性を開いています。市民協働も英語ガイドの試行、街歩きツアーなど幾つもの道筋をつけ、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりに注力しており、今後も多面的な美術館へのアクセスと寄与、新しい価値観を享受できる本質的な市民協働の継続的発展を期待しています。 ・運営面では、心地よい鑑賞環境づくりや、外部資金獲得による収支のバランスなど、たゆまない工夫と努力が見て取れます。 ・展覧会、教育普及事業、運営ともに、これまでの蓄積を活かし、着実な進展をみせており、鑑賞者にとっても、豊かな発想と新鮮な切り口で、質の高いアートの世界とつながれること、また興味ある市民が支え手として多様に関われることなど、横浜美術館が成長を続ける運動体としての芸術拠点であることが素晴らしいと思えます。28年度もその過程としての視点をこめて評価させていただきました。	文部科学省文化審議会は、平成28年11月に文化芸術立国の実現を加速する文化政策についての答申をとりまとめています(平成28年度文部科学白書)が、こうした国の文化芸術立国政策に沿った施策を指定管理者である財団が運営の基本方針に反映させ、あるいは先取りして取り組んでいただきたいと思います。そして、財団の運営管理下にある本館ならびにみなとみらいホール等が、運営の基本方針と整合的な事業活動を展開することが重要であると思います。また、そのことが市民に認識されていくことが大切であると思います。	「国際都市横浜の美術の拠点」「次世代の美術振興」については昨年度同様、質の高い活動を継続的に展開している点を高く評価したい。さらに、クリエイティブ・インクルージョンの観点からの活動充実も目を見張るものを感じる。教育プログラムや来館者サービス、データベースや美術情報センターの利用促進策など。今後の横浜美術館の方向性を示す活動が展開されていると思う。この分野、大いに期待している。	企画展、コレクション展における堅実な成果、新たな視点に基づいた教育普及プログラムの充実・展開など、美術館として着実な取り組みが行われている点を評価したい。 大型のメディア展、ユニークな現代美術展などを活発に行っている東京圏の美術館群と比較して、横浜美術館として何を、どのようにアピールし、横浜ならではの強みやユニークネスをどのように形成していくか、容易な課題ではないが、引き続き、果敢かつ意欲的なチャレンジを期待したい。
----	---	--	---	---	---

平成28年度 横浜美術館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命	
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。	※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」
(2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。	
(3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取組ます。	
(4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取組、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。	

評価項目	平成28年度計画			実施状況		評価		
	項目	目標の実践 達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 経営 政策目標(経営)横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。	(1) 横浜トリエンナーレ[重点的な取組み]	●ヨコハマトリエンナーレ2017の体制・スケジュールを市に提案・協議	平成28年4月	実施	・平成28年4月 国際グループ設置	【成果】 ・4/1に国際グループを設置し、組織委員会と共に取り組む体制を整えました。 ・国内外の国際展調査を行い、館内で専門的な知見を共有し、横浜トリエンナーレの企画・運営に活かしています。 ・日本経済新聞2016回顧では2016年に開催された様々な国際展がとりあげられ、横浜トリエンナーレはベンチマークの一つとして挙げられており、また、多国籍の多様な領域の専門家を交えた構想会議がグローバル化への対応例として言及されるなど、美術専門家の注目を集めました。 【課題】 ・美術館と横浜トリエンナーレの活動を一体的に推進するようなオフィスやネットワーク環境の整備をし、より効率的な事業を提供することを検討します。	【評価できる点】 国際グループの新設により、専門性を発揮する体制を構築し、横浜トリエンナーレを通じて国際的な発信力の強化を行っている点を評価します。 【改善が必要と考えられる点】 特になし	
	(2) 海外への発信 [重点的な取組み]	●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回 ※中期目標:1〜2回/3年 ●海外インターン受入 ●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成 ●日英での紀要の発行 ●外国人団体向けボランティア・トーク ●日英での展覧会プレスリリース作成 ●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付 ●海外VIPへの展覧会招待状送付 ●海外来館者の把握 ●展覧会および全館広報などの通常業務	H29.30の巡回をめざし準備 1回 1回/展 1回 1回/展 1回/展 1回/展 1回/展 1回 1回以上	実施 1回 1回/展 1回 1回/展 1回/展 1回/展 1回以上	・H29秋 企画案および営業パートナー決定 ・H29秋 営業開始、H30.3会場契約、H30冬巡回 ・会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記(篠山展は英文ハンドアウト配布) ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記 篠山展は発送せず、横浜トリエンナーレ告知を入れた年賀状を発送 4/23以降の展覧会会期中実施	【成果】 ・コレクション海外巡回については、メディアを介した営業方法を見直し、H29秋に企画案および営業パートナー策定・営業開始、H30.3会場契約と、H30冬巡回に向けて、準備を進めます。 ・海外来館者の把握を4/23より開始し、この成果を、ビジターサービスの活動等に活かします。 【課題】 ・海外巡回展は企画・営業とも非常に難航していますが、主管である国際グループを設立してまだ1年であるので、もう数年、実現に向けて最大限努めます。それでもなお難しい場合には、海外発信の新たな方法を検討します。	【評価できる点】 海外来館者を把握する取組を開始し、パネルの多言語化などの館内での取組と、紀要の発行やプレスリリース等、外への発信も合わせて実施できていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 28年度においては、営業方法の見直しなど海外巡回に向けての準備を進められていますが、今後早期の実施に向けての具体的な進捗を期待します。	
	(3) 広報	●首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報 ●ウェブを活用した全館広報 ・露出件数 ・ウェブサイトアクセス数 ・メールマガジン登録数 ・Twitterフォロワー数	1回/展 1回 700件 5,000,000件 500人増 3,000人増	1回/展 1回 2,092件 4,710,615件 742人増 16,851人増	B B A B A A	・ゼロックス:4月割引を近隣企業等に配布(横浜)、5月割引をアートフェア東京に配布(首都圏) ・カサット:5月京王線渋谷駅ポスター、7月三菱一号館美術館相互割引(首都圏)、6.8月桜木町駅歩道横断幕(横浜) ・Body特別割引配布:9月近隣就業者(横浜)、さいたまトリエンナーレ(首都圏) ・篠山:12月相鉄、市営地下鉄ドア横B3ポスター、横浜駅B1ポスター(横浜)、12月彫刻の森美術館相互割引、原美術館相互配架(首都圏)	【成果】 ・首都圏・横浜向けに重点をおいた展覧会毎の広報に加え全館広報を展開し、Twitterフォロワー数は首都圏最大級を維持しています。 ・ウェブサイトについては、3/30に「音と映像でたのしむ」ページの更新を行い、お客様に当館の最新状況を発信しています。 【課題】 ・ウェブサイトアクセス数については、目標にとどまませんでした。要因としては、2015年秋にお客様の利便性を考慮して階層の浅いサイトに改定したこと、また当年度のメディア展ウェブサイトが通常より階層の浅いものであったことです。今後は、データの蓄積と分析を行い、階層の浅いサイトに適した目標を設定します。	【評価できる点】 首都圏の駅でのポスター掲示、Twitterでの積極的な広報、メールマガジン登録数増の取組など様々な広報のチャンネルを積極的に増やす取組を行っていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 企画展毎にターゲットをより明確にした広報の実施と、合わせて多くの人に新たな価値を伝えられるような広報を期待します。
	(4) 外部との連携	●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施	2回	28回	A	・日テレドラマ完成試写会[横浜市連携] ・日本フィル音楽創造ワークショップ[日本フィル連携] ・子どもプログラム[KAATキッズプログラム2016]『わかったさんのクッキー』連携 ・企画展レクチャー[女子美術大学・橋学園高等学校連携] ・美術情報センター視察[鶴見大学] ・カサット 特別鑑賞会[アートリンクin横浜赤レンガ倉庫×横浜平沼高校美術部] ・コレクション展1期,Body,NAP映像アップ[城西国際大学連携] ・イメージフォーラム[イメージフォーラム連携] ・Heart to Artしんきんコンサート・エコ教室[横浜信用金庫連携] ・カサット 横浜美術館で音楽会[みなとみらいホール・フランス月間連携] ・Heart to Art美術情報センターサイン工事・Body特別内覧会[寺田倉庫連携] ・インポートSUV&クロスオーバー2016[インポートSUV&クロスオーバーフェア2016連携] ・第18回図書館総合展への参加[有隣堂連携] ・第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会[関東甲信越静地区造形教育・神奈川県造形教育協議会連携] ・クラシックヨコハマ[横浜市連携] ・オートカラーアワード [JAFCA連携] ・「横浜美術館学芸員に聞く アートの楽しみ方」[海老名市立中央図書館連携] ・情報・資料研究部第46会合[全国美術館会議連携] ・台北ノート[TPAM連携] ・「美術館とコレクション」第8回[青山ブックセンター連携] ・CP+レセプション[横浜市連携] ・CP+での横浜美術館特別レクチャー [横浜市連携]	【成果】 ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、大学、企業等との連携による事業を、計画を大幅に超えて実施し、当館の活動を広げています。 【課題】 ・現在は、互いに専門性を活かし美術振興に資する事業の他、収益や市政政策に寄与する事業を実施しています。より効果的、効率的な事業の推進に向け、館内での検討を進めます。	【評価できる点】 Heart to Artにおいて、企業と信頼関係を構築し、それぞれにメリットのある連携を行っていることを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 現在外部との連携は十分に達成できています。今後も継続して、美術館のハードを活かし、外部資金の獲得等も含めて連携していくことを期待します。

2 事業 政策目標(事業①)質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます	(1) 企画展	●富士ゼロックス版画コレクション+横浜美術館コレクション『複製技術時代の美術【4月23日-6月5日】:入場者数	22,000人	21,787人	B	【成果】 ・横浜の企業コレクションと当館コレクションを組合わせたゼロックス展、当館が企画を提案しメディアと共催したカサット展、主にアジアの中堅アーティストを紹介したBody展、当館コレクションと合わせて全館写真展として発信した篠山展と、当館の特徴や強みを活かした多様な展覧会を展開し、一般から専門家まで幅広い評価を得ました。 【課題】 ・企画展合計の目標234,000人に対し、実績は232,462人(99.3%)となりました。未達成要因としては、Body展の目標設定やタイトルの付け方に課題があったと考えています。 ・企画展については、メディア共催展が東京の一部の地区に集中し始めており、横浜美術館の従来の来場者数を維持することが難しくなっています。この状況を打開するための対策を、財源等も含めて検討を進めます。	【評価できる点】 地元企業と連携した展覧会、メディアと連携した大型展、現代美術展、写真展とバラエティに富んだ企画ができています。メアリー・カサット展では、女性の印象派という独自の企画、篠山紀信展ではCP+と連動した企画を行い、それぞれ目標を達成し多くの来館者となったことを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 BODY/PLAY/POLITICS展では目標を大きく下回りました。企画段階からの広報の打ち出し方、タイトル及びビジュアルの伝え方等を検証し、PDCAを回すことで改善することを期待します。	
		●メアリー・カサット【6月25日-9月11日】:入場者数	120,000人	123,972人	B			
		●PLAY-身体のパフォーマンス【10月1日-12月14日】:入場者数	35,000人	20,227人	C			
		●篠山紀信 写真力【1月4日-2月28日】:入場者数	57,000人	66,476人	A			
	(2) New Artist Picks	●New Artist Picks	開催1回	1回	B	・和田淳展@アートギャラリー1・カフェ	【成果】 ・若手作家支援(NAP)については、過去の経験を踏まえ、スケジュール、会場、サインに工夫を重ね、目標入場者数を超える来場者に観覧いただきました。	【評価できる点】 企画から学芸員が積極的に携わり、若手作家との関係を築けていることが見て取れ、入場者数も大きく上回っていることを評価します。
		入場者数	1,500人	8,596人	A		【改善が必要と考えられる点】 引き続き、展覧会後の作家の活動を積極的に把握することで、横浜美術館のプレゼンスを高めることを期待します。	
		展覧会後5年間の作家の活動を把握	1回	1回	B	・8月 様子定め活動把握	【課題】 ・現在は、予算に制限があるため、写真や映像などの分野に偏っています。今後は、館内で協議して、それ以外の分野の作家を広く紹介することが可能になる財源を検討していきたいと考えています。	

評価項目		平成28年度計画		実施状況		評価			
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	コメント	説明	自己評価	行政評価	
政策目標(事業②)魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	(1) コレクション	●コレクションの形成、保存に関する通常業務	-	実施	-	・内部検討委員会 ・収集審査委員会 ・前年度目録発行	【成果】 ●コレクションの形成 収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 ●コレクションの保存 ・収蔵庫の状況について、現状の課題を市と共有し、新収蔵品のデータを登録して、目録として公開し、広く研究に貢献しました。 ・集中的な庫内清掃を学芸員が実施し、庫内環境の保全に努めました。	【評価できる点】 教育プロジェクトチームが手掛けた「描かれた横浜」では、季刊誌との関係やボランティアのプログラムなど、コレクションを活かした横浜美術館ならではの取組ができました。また、篠山紀信展と連動し、初となる全館写真展示の実施など、積極的にコレクションの活用が図られています。	
		●コレクションの活用	-	-	-			【改善が必要と考えられる点】 コレクションのパッケージ展では、今後の大規模改修期間における巡回展も見据えて、他館へのアプローチを積極的に進めていくことを期待します。	
		・1期【4月23日-6月5日,6月25日-9月11日】	145,200人	154,061人	B				
		・2期【10月1日-12月14日】	37,000人	26,243人	C				
		・3期【1月4日-2月28日】	58,500人	69,957人	A				
		・コレクションパッケージ展国内巡回:H29の巡回をめざし準備 ※中期目標:1回/3年	H29の巡回をめざし準備	実施	-		・H29.6企画案確定予定	【課題】 ・収蔵庫増など環境の整備とコレクション財源の充実をはかり、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。 ・コレクション国内巡回については、大規模改修の時期に、当館コレクションを十分にアピールするような巡回展ができるよう、企画・営業の両面で積極的に取組たいと考えています。	
		・コレクションの画像と解説をウェブ公開 :10作品/年	10作品	10作品	B				
(2) 美術情報センター	●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務:利用者数	17,000人	30,521人	A			【成果】 ・美術情報センターでは、展示室からの廊下と正面入りロサインボードの改修、展覧会と連動した特別展示の実施、視察の積極的受入、カウント方法の変更等により、利用人数が増えています。	【評価できる点】 企画展と連動した展示を行っていることや、Heart to Artにより民間と連携し、案内を分かりやすくした取組を評価します。	
	●普及のための事業	1回	2回	A		・メアリー・カサット展連動企画 特別資料展示 ・Body・篠山連動企画 特別資料展示	【課題】 ・環境の整備をし、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。	【改善が必要と考えられる点】 利用者数については、カウント方法が変更されているため、次年度以降の推移を把握していく必要があります。	
	●第Ⅲ期に向け、開かれた専門性をめざした具体的な取組みを検討 ※中期目標:平成29年 試行、平成30年 検証予定	平成28年10月検討	実施	-		以下決定し、H29 事業計画に反映 ・大規模改修中に所蔵映像資料デジタル化 ・H29 試行、H30 検証予定			
(3) 調査・研究	●紀要の発行(論文3本以上、日英併記,販売検討)[再掲:日英併記]	1回	1回	B			【成果】 ・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取組ました。 ・研究紀要では、紀要(サマリー)の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しました。	【評価できる点】 目標通り実施できています。多言語化し、魅力の発信に繋げていることを評価します。	
							【改善が必要と考えられる点】 特になし		
政策目標(事業③)美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	(1) 教育プログラム:鑑賞教育 [重点的な取組み]	●企画展	-	-	-		【成果】 ・企画展では、ゼロックス展とカサット展での当館教育普及の専門性を活かした各種ワークショップを行いました。ゼロックス展では、ゼロックス社のアプリを活用した音声ガイドを提供し、カサット展では、海外招聘を含む講演会やシンポジウムを通じた専門性の高い知見を紹介しただけでなく、ジュニアガイドの発行を通じて来場者の視野を広げました。Body展では、赤レンガ倉庫一号館と専門館連携に取組むとともに、黄金町とともにフォーラムを共催し、大学や他館の美術関係者と議論を深めました。また、カサット展の開催を通じて、海外の美術館との新たなネットワークづくりにもつながりました。Body展については、アジアの現代美術の展覧会は集客が難しい場合が多く、公立美術館において取組む館は少ない中、アジアの文化的ハブを目指す横浜市の美術館として意欲的に取組み、他館専門家からその積極性を評価する論評を得ました。	【評価できる点】 企画展におけるADBや音祭りなど市のイベントと連携した取組、コレクション展での中高生プログラム、教師向けのプログラムとして授業で活用できるツールの作成など次世代育成の取組、また、特別支援学校向けプログラムなどソーシャルインクルージョンの取組等、非常に多岐にわたる活動を行っていることを評価します。	
		・講演会	2回/展	2回/展	B		・ゼロックス:トークセッション、アーティストトーク ・カサット:講演会、シンポジウム ・Body:フォーラム1部・2部[第50回アジア開発銀行年次総会横浜開催連携] ・篠山:アーティストトーク		【改善が必要と考えられる点】 現在の活動を継続して、横浜美術館における鑑賞の付加価値を上げていけるよう期待します。
		・ギャラリートーク	2回/展	2回以上/展	B		・ゼロックス:5/14,21,28,6/2 *6/2は子ども向け ・カサット:7/8,8/5,9/2 ・Body:10/17アーティストトーク2回 ・篠山:1/28,2/11,25		
		・教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)	1回	1回	B		・カサット展公開	・コレクション展では、三つの新しい試みを通じて、様々な方に当館コレクションへの理解を深めていただくよう努めました。第一に、ヨコハマトリエンナーレ2014以降継続してきた、中高生が小学生の鑑賞を導く中高生プログラムをコレクション展で初展開し、3月にはその過程で生まれた戯曲を上演するなど、ユニークな鑑賞教育に発展させています。第二に、教員の方向けについては、レクチャーを企画展からコレクションに転換することで、当館コレクションに親しんでもらうと同時に、教員の方々と作成したコレクション作品を用いた中学校の鑑賞授業の授業案を行いました。特に後者は、他館からの視察など専門家の間でも注目を集め、2,3月には実際に中学校での公開授業で活用されるなど、当館職員の専門性を発揮し、学校現場における鑑賞教育に発展させています。第三に、コレクション展2期に教育普及の観点で企画したセッション「描かれた横浜」では、外部講師によるレクチャーや街歩きツアーを展開し、こちらも他館の視察があるなど、ユニークな試みとして注目を集めました。	
		・その他【追加実績】	-	16回	-		・ゼロックス:音声ガイド、子どものアトリエ親子講座、アートクルーズ ・カサット:トークイベント、アートクルーズ、市民のアトリエ版画デモンストレーション、NHKがんこちゃん親子講座 ・Body:アートクルーズ、ライブパフォーマンス[横浜音祭り2016連携] ・篠山:アートクルーズ ・NAP:アーティストトーク,NAP上映会		
		●コレクション展	-	-	-				
		・美術館職員の専門性を活かした各種トーク	8回	19回	A		・I期:5/13,27,7/8,22,8/12,26ギャラリートーク,6/5,7/16アーティストトーク ・II期:10/14,28,11/11,25,12/9ギャラリートーク,10/16アーティストトーク ・III期:1/13,27,2/10,24ギャラリートーク,2/24アーティストトーク		
		・トークその他【追加実績】	-	3回	-		・「描かれた横浜」関連レクチャー ・中高生プログラム ・こども探検隊 *報告冊子編集 *中高生教筆の戯曲を俳優が上演		
		・創作体験を取入れた鑑賞プログラム	1回	1回	B				
		・特別支援学校向けプログラム	2回	2回	B				
		・学校連携 教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロード)	1回	1回	B		・5/28,6/25,11/26,1/21 ・2/24 ウェブサイト掲載 *9/3,10/22,29,11/12グループワーク *2/14,3/3 公開授業で活用		
		・学校連携 アートティチャーズデー	3回	4回	B				
		・学校連携その他【追加実績】	-	12回	-		学校連携 ・横浜芸術文化プラットフォームにおける教員研修 ・中高生・夏休み美術相談デー ・ふれあいコンサート参加校団体鑑賞の教員への事前レクチャー ・ふれあいコンサート参加校団体鑑賞 ・小学校向けコレクション展鑑賞会 ・子どものアトリエ学校プログラム(鑑賞)個人向け ・子どものアトリエ 美術ってなんじやもんじや		
		●ボランティアによるトーク:個人向け	1回以上	2回	A		個人向け:ゼロックス5/11以降の水日各日3回「ココがみどころ!」、コレクション展第2期11/22,27「描かれた横浜」ボランティアによる街歩き		
		外国人向け[再掲]	1回以上	1回	B				
学校向け【追加実績】	-	2回	-		・団体向け:ふれあいコンサート参加校団体鑑賞、ヨコビ探検隊美術館探検ツアー				

評価項目		平成28年度計画		実施状況		評価			
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	実績	説明	自己評価	行政評価	
(2) 教育プログラム:子どものアトリエ	●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務:利用者数	25,000人	25,009人		B	(一部再掲:教師のためのワークショップ)	【成果】 ・子どものアトリエでは、8月よりフリーゾーンを事前予約制とし、お客さまの利便性を高めています。	【評価できる点】 これまで先着順であった親子のフリーゾーンをインターネットでの事前予約制にし、利便性向上の取組を行っていることを評価します。	
			●第Ⅲ期に向け、外部連携による事業展開を検討:平成28年10月 検討 ※中期目標:平成29年 試行、平成30年 検証予定	平成28年10月 検討	実施	—	以下決定し、H29 事業計画に反映 ・学校のためのプログラム ・学校のためのプログラムと教師・保育士研修のバランスを見直し、より高い波及効果を狙う。 ・個人講座 アーティストや外部専門文化機関と連携し、美術館のアトリエとしての独自性を発揮する	【課題】 ・現在は、予算に制限があるため、集客しやすさの観点で講座を企画することもあり、その結果、民間の講座との差別化が難しくなっています。今後は、館内で協議して、美術館の独自性をアピールし、より新たな講座を展開できる財源を検討していきたいと考えています。	【改善が必要と考えられる点】 学校のためのプログラムでは、供給が追いついていない状況ですが、美術館でしか体験できない機会の創出と地域全体への教育的な観点によりバランスの取れた事業を実施していくことを期待します。
	●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務:利用者数	5,500人	6,328人		A	・環境:5-6月 初夏の香り ・展覧会:5月 コラージュ(ゼロックス), 7月 油絵(カサット), 10月 テキスタイル(コレクション展), 12月 演劇(Body), 2月 映像(NAP)	【成果】 ・市民のアトリエでは、展覧会と連携し、美術館ならではの講座を実施しています。ゼロックス展ではコラージュ、カサット展では油絵講座を実施しました。東京藝術大学大学院映像研究科などの著名な作家と連携しながら、Body展関連で演出家によるパフォーマンスの講座、NAP関連でアニメーションの講座など新分野の講座を開設しました。	【評価できる点】 横浜美術館ならではの展覧会と連動した講座の開催を実施しており、目標以上の利用者数となっていることを評価します。	
		●著名アーティスト連携による新分野講座	2講座	2講座		B	・12月 演劇 ・2月 映像	【課題】 ・現在は、予算に制限があるため、集客しやすさの観点で講座を企画することもあり、その結果、民間の講座との差別化が難しくなっています。今後は、館内で協議して、美術館の独自性をアピールし、より新たな講座を展開できる財源を検討していきたいと考えています。	【改善が必要と考えられる点】 特になし
(3) 教育プログラム:市民のアトリエ	●東京藝術大学映像科連携講座 ※中期目標:1講座/3年	1講座	1講座		B	・2月 映像(再掲)	【成果】 ・市民のアトリエでは、展覧会と連携し、美術館ならではの講座を実施しています。ゼロックス展ではコラージュ、カサット展では油絵講座を実施しました。東京藝術大学大学院映像研究科などの著名な作家と連携しながら、Body展関連で演出家によるパフォーマンスの講座、NAP関連でアニメーションの講座など新分野の講座を開設しました。	【改善が必要と考えられる点】 特になし	
		●横浜芸術文化プラットフォームによる学校連携	3回	3回		B			
	●子どものアトリエボランティア	20人	36人		A				
	●美術情報センターボランティア	5人	9人		A				
(4) 市民協働:ボランティア等	●鑑賞ボランティア	25人	65人		A		【成果】 ・各分野で目標を上回るボランティアの方にご参加いただき、市民の力を活用しています。	【評価できる点】 各ボランティアで目標以上の参加者数となっています。	
	●鑑賞ボランティア ※中期目標:トリエナーレ 100人/年	—	—		—				
	●デジタルサービス	—	—		—				
	●横浜シテイガイド協会等と連携した活動	2回	2回		B	・託児サービス[NPOはぐつと連携](再掲)			
(5) 市民協働:コレクション・フレンズ	●外国人・障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進検討	10人	14人		A	・研修(一般むけ接遇向上と障がい者対応) ・研修(障がい者対応と外国人対応)	【課題】 ・ボランティアルームなどの環境の整備をし、より効率的で質の高い事業を提供することを検討します。	【改善が必要と考えられる点】 今後も継続した取組で、特に、自身の能力を發揮できる場所としてボランティアの方が積極的に参加し、あらゆる方へのクリエイティブ・インクルージョンの取組を深化させていくことで新たな繋がり場の創出していただく。	
	●「原三溪市民研究会」等と共同研究会実施	1回	1回		B	・研究会 ・奈良スタディツアー ・シンポジウム			
	●参加者数の拡大	180口	196口		B				
	●メンバーシップの多様化とプロモーション策検討	平成28年4月	実施		—	・上位階層メンバーシップ開始(特典:企画展内覧会・図録進呈) ・次年度プロモーション(早期申込キャンペーン・ご紹介キャンペーン)			
(6) 市民協働:各種社会貢献事業	●アウトリーチ	—	—		—		【成果】 ・アウトリーチでは、従来の病院に加え、新たな病院と連携を開始しました。高齢者施設でのアウトリーチでは、実施回数を増やし、嗅覚など五感を刺激する内容に発展させています。11月には、従来より館内でプログラムを行っていた市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチを初実施しました。	【改善が必要と考えられる点】 今後、大規模改修における休館期間での実施も視野に入れながら、教育機関等と連携し、地域全体へ広げていくことを期待します。	
	・病院等	2回	2回		B	・Heart to Art 神奈川県子ども医療センター ・横浜医療福祉センター-港南			
	・福祉施設	1回	3回		A	・K2インターナショナル ※当館内ワークショップ実施			
	・高齢者施設	1回	2回		A	・戸部ハマノ園[横浜国立大学連携] ※前段として横浜国立大学と当館で研修			
	・その他【追加実績】	—	2回		—	・Heart to Art 幼稚園アウトリーチ			
	●人材育成	—	—		—				
	・博物館実習	1回	1回		—				
	・子どものアトリエ インターンシップ	5名	32名		A	・6/11-3/31 10名/年 ・7/30-24 22名/年[城西国際大学] ・教育プロジェクトインターン3名			
	・その他【追加実績】	—	3名		—				
	・教師のためのワークショップ	2回	2回		B				
	・その他【追加実績】	—	12回		—	・子どものアトリエ ・教育プロジェクトチーム			
	3 施設の運営事業 政策目標(施設運営①)お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	(1) 来館者サービスの充実	●四つの基本方針に従った来館者サービス業務	—	—				
1) 顧客サービスの質向上							1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加		
2) 顧客サービスの拡大:市民協働							2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施		
・ハード整備:子ども預かり車いす/保健室 *車いす/保健室はH28準備、H29スタート							・家族:託児サービス ・障がい者:車椅子向けアクセスマップ ・団体:26団体に事前レクチャー提供		
・団体:一般/学校							・観光客等:Bio Japan特別鑑賞会		
・観光客:旅行会社に営業しレセプション実施							・近隣就業者:マークイズ、MMCC、かもめスクール、夜間開館、街コン		
・近隣就業者:MMCC/かもめ/マークイズ							3) パンフレット等整備		
・夜間開館							・館パンフレットのデザイン統一		
3) 館内配布パンフレットやサイン							4) 植物、ソファ設置開始		
4) 季節感あるおもてなし							・カフェイルミネーション ・門松 ・お正月装花		
●第Ⅲ期に向け、さらなるお客様の高い満足度をめざした具体的な取組みを検討			—	実施			以下決定し、中期計画に反映予定 ・大規模改修中のサイン・パンフレット・ソファ等更新		
□展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点			4.00以上	4.08		B			
□展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点	4.30以上	4.45		B					
(2) ショップやカフェの付加価値の向上	●ショップ	—	—		—		【課題】 ・環境の整備をし、あらたなサービスを効果的、効率的に提供することを検討します。		
	・コレクションを活用したオリジナル商品	1商品	41商品		A	・コレクション写真集書制作:新作41作品、増刷14作品			
	・企画展関連商品コーナー	1回/企画展	1回/企画展		B				
	●カフェ	—	—		—				
	・コレクションを活用したオリジナルメニュー	1商品	1商品		B				
	・企画展関連メニュー	1商品/企画展	1商品以上/企画展		B	・ゼロックス:2種 ・カサット:2種 ・Body:1種 ・篠山:1種			

評価項目		平成28年度計画		実施状況		評価					
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	コメント	説明	自己評価	行政評価			
政策目標(施設運営②)財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	(1) 適正な施設管理	●大規模改修	大規模改修の実施にむけ市と協働	実施	—	・市と協議	【成果】 ・Body展でのレセプションや美術情報センターのサイン改修など新たな形態での企業連携を行い、他館からの視察が入るなど注目を集める活動となりました。 ・来年度の新規契約2社等に向けて、10社以上の企業に営業を行い、新たな企業連携の可能性を探りました。 【課題】 ・大規模改修については、ハードとソフトの両面から横浜美術館の姿を描き、推進していきたいと考えます。 ・企業連携プログラムHeart to Artについては、4社と契約し、目標にはあと1社到達しませんでした。収入額は予算を上回ることができました。今後は、協力会との関係を活かした営業体制を検討したいと考えます。 ・ショップ・カフェおよびファンドレイジングについては、環境の整備をし、あらたなサービスを効果的、効率的に提供することを検討します。 ・人材強化については、次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、人材育成を検討していきたいと考えています。	【評価できる点】 Heart to Art では、契約数で目標に達成していないものの、協賛金は予算を上回ったことを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 継続的な財政基盤の安定に向けて、より企業が長期的に支援できるプログラムの検討など進めることも必要であると考えます。			
			●日々の適正な施設管理:安全管理事故	0件	0件	B					
			●災害対応	—	—	—					
			・マニュアルの最新化と共有	1回	2回	A					
			・訓練	2回	2回	B					
			●開館30周年事業を検討する ※中期目標:平成29年 試行、平成30年 検証予定	平成28年10月 策定	実施	—			以下決定し、中期計画に反映予定 ・実施年のH31に向け、体制・事業・財源の確定		
			(2) 経営基盤の強化	●ファンドレイジング	・平成26年度に始動した法人協賛制度支援者拡大	2社増			1社増	C	(目標5社、実績4社) Heart to Art(企業向け芸術支援プログラム)企業協賛金は予算より多く収入
					・企業との関係構築にむけた継続的な営業活動	10社			11社	B	
					・第三期にむけた、新たなファンドレイズを検討 ※中期目標:平成29年 試行、平成30年 検証予定	平成28年10月 検討			実施	—	以下決定し、H29事業計画に反映 ・H29 寄付または支援グッズ制作 ・H30 展覧会協賛獲得に向けて全館的に取組める体制作り
					・その他【追加実績】	—			1回	—	・カサット展特別鑑賞会[大和証券連携]
(3) 人材強化	●国際グループの新配置	平成28年4月 学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	平成28年4月 実施	実施	—	・財団スケジュールに従い実施 ・専門職員担当リーダー以上館長個別面接					
		●学芸員、エデュケーター育成を再構築:学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	—	—	—						
4 その他の業務	政策目標(その他の業務)政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	●市の政策と事業の相互連携:政策経営協議会	4回	4回	B	【成果】 ・計画通り進捗しました。	【評価できる点】 予定通り実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 特になし				
		●進捗状況報告 1回/年 ※評価は協約期間終了時に実施	1回	1回	B	半期振り返り報告					
		●外部意見の取入れ 外部有識者を交えた教育普及企画運営会議:1回/年	1回	1回	B	【課題】 ・今後は、より、美術振興に資する事業をフレキシブルに密度濃く実施できるよう、指定管理制度に伴う事務低減策を検討したいと考えております。 ・次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討していきたいと考えています。					
		●年報発行:1回/年	1回	1回	B						
5 人員計画	過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	46人 ・館長1人 ・副館長1人 ・グループ長4人 ・担当グループ長2人 ・チームリーダー9人 ・担当リーダー・職員29人	47人 ・館長1人 ・副館長1人 ・グループ長4人 ・担当グループ長2人 ・チームリーダー9人 ・担当リーダー・職員30人	—	—	【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・次期指定管理期間となりますが、大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、人員計画を検討して行きたいと考えています。	【評価できる点】 計画どおり実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 将来的な世代交代も見据えた専門的な人材育成を行っていくことを期待します。				
6 留意事項	保険及び損害賠償の取扱い 法令の遵守と個人情報保護 情報公開への積極的取組 市及び関係機関等との連絡調整	保険及び損害賠償の取扱い	業務の基準に基づいた適正な取扱い	実施	—	—	【成果】 ・計画通り進捗しました。 【課題】 ・大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討します。	【評価できる点】 計画通り実施できています。 【改善が必要と考えられる点】 特になし			
		法令の遵守と個人情報保護	コンプライアンス窓口を設置し対応	個人情報保護研修 1回/年	1回以上/年	B			・新配属・新採用者向け ・全職員向け		
		情報公開への積極的取組	財団事務局に情報公開窓口を設置し対応	実施	—	—					
		市及び関係機関等との連絡調整	横浜市や関連機関との連絡緊密化	実施	—	—					
その他 1)許認可及び届出等 2)施設の目的外使用 3)人権の尊重 4)近隣対策 5)重要書類の管理 6)行政機関が策定する基準等の遵守 7)法令の制定及び改正への対応	その他 1)許認可及び届出等 2)施設の目的外使用 3)人権の尊重 4)近隣対策 5)重要書類の管理 6)行政機関が策定する基準等の遵守 7)法令の制定及び改正への対応	法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	実施	—	—	—					
7 収支計画	(円) 収入合計 1,105,523,000 指定管理料収入 759,971,000 利用料金収入 59,234,000 事業収入 221,304,000 その他 65,014,000 (円) 支出合計 1,105,523,000 人件費 352,377,000 事務費 9,165,000 事業費 351,026,000 管理費 214,525,000 その他支出 178,430,000	(円) 収入合計 1,126,428,135 指定管理料収入 759,971,000 利用料金収入 67,595,735 事業収入 218,792,602 その他 80,068,798 (円) 支出合計 1,126,428,135 人件費 354,032,928 事務費 23,040,075 事業費 354,745,335 管理費 207,645,629 その他支出 186,964,168	決算「利用料金収入」にコレクション展観覧料収入を含む 決算「その他」に財団繰越金補てん8,127,409円含む	—	—	【成果】 ・ゼロックス展及びBody展の来場者数目標未達成や村上展因録発行遅延による発送経費増等で厳しい状況となった収支を、協賛金や助成金獲得、篠山紀信展収益等で改善を図り収支均衡となりました。 【課題】 ・過去の実績をもとに来場者数の予測をたてていますが、予測通りとならないこともあり、特に28年度はメディア展が年度の終わりの計画であり、執行計画が立てにくい状況でした。より実効性の高い収支計画の策定方法を検討していきます。	【評価できる点】 Heart to Art により予算以上の協賛金を獲得できていたことを評価します。 【改善が必要と考えられる点】 事業収支のバランスを取れるよう引き続き、外部資金の獲得、経費削減に努めてください。				
			決算「事務費」に財団繰越金補てん対象Wi-Fi敷設工事及び備品を含む 決算「事業費」にコレクション展支出含む	—	—	—					

総括

自己評価		行政評価	
展覧会については、横浜の立地、当館学芸員の専門性、当館コレクションなどの当館の特徴や強みを活かした多様な展覧会を展開し、特に35年ぶりの開催となったカサットの個展は専門家の評価を得ました。そして、コレクション展では教育普及の観点を導入した企画、企画展とあわせて全館写真展とするなど、新しい観点での発信を行いました。	平成28年度において、メアリー・カサット展では自らの企画として、女性の印象画家という一般ではあまりなじみのないテーマを取り上げ、12万人を超える観覧者となったことから、「新たな価値の提案」ができていることを評価します。また、コレクション展で教育プロジェクトとして横浜を取り上げたことや、企画展と連動した全館写真展示を試みるなど、コレクションの魅力の発信ができています。		
また、教育普及について大きな進展がありました。企画展では、海外専門家や大学等と連携したシンポジウムを複数回実施しました。コレクション展では、演劇の手法を導入したプログラム、教師の方々と一緒につくりあげたコレクション鑑賞ガイド、またボランティアによる街歩きツアーなど、専門性を活かしつつオリジナリティある講座を複数開催しました。アウトリーチについては、若者自立支援組織で新たに開始した他、病院での実施も拡大し、高齢者施設でも大学と連携して香りを使った講座を新しく開発するなど、挑戦を続けています。	教育普及事業では、新たな試みとして美術の授業で活用できるツールを教師と連携し作成するなど、美術館の内部のみならず、外へも広がっていく取組ができています。		
そして、運営面においては、特にファンドレイズで、企業協賛による華やかなレセプション開催のほか、美術情報センターのサイン改修など特徴ある企業連携を実現しました。	一方、BODY/PLAY/POLITICS展では目標に届いておらず、現代美術により多くの人に分かりやすく伝えることについては課題が残りました。		
以上のように、展覧会、教育普及、運営の各部門で着実に進展した年となりました。			